

令和6年8月22日

美里町議会

議長 鈴木宏通 殿

総務、産業、建設常任委員会
委員長 佐野善弘

総務、産業、建設常任委員会委員派遣報告書

本常任委員会は、所管事務調査を終了したので、美里町議会委員会規則第22条の規定により下記のとおり報告する。

記

1. 調査年月日 令和6年7月29日（月）～30日（火）
2. 調査視察地 （1）岩手県紫波町
 （2）秋田県大仙市
3. 調査項目 「土地の有効活用とまちづくり」
4. 参加委員 佐野善弘、鈴木恵悦、吉田二郎、山岸三男、伊藤牧世
 鈴木宏通議長
5. 随員職員 佐藤理子

所管事務調査研修報告

1 目的

少子高齢化、人口減少が進行しているなかで、町有地・町全体の土地を有効活用して地域経済や地域住民の活動を活発化するための調査、政策提言を行うため視察研修を行う。

また、紫波町では、7校の小学校を閉校しており、その跡地の利活用について、大仙市では大曲駅周辺の再開発事業を行っており、立地適正化計画に伴うまちづくりについて視察研修を行う。

2 調査・研修地の概要

(1) 岩手県紫波町

1) 概要

- ①人口 32,717 人（令和6年3月）
- ②世帯数 12,955 世帯
- ③面積 238.98 km²

2) 質問事項

- ①公民連携の手法によるまちづくりに至った経緯と成果について。
- ②農村（田園）と都市（街）が共生するまちづくりの内容と具体的な施策について
- ③オガールプロジェクトと町の関りについて
- ④町の土地利用計画と企業誘致について
- ⑤学校跡地活用基本計画と利活用の基本コンセプト「産業の振興」と「人材の育成」の内容と具体的な施策について

3) 所見

紫波町の中心部に位置する紫波中央駅は、請願駅で、平成10年に開業した。新駅の誕生を町の活性化につなげたい考えで町は、駅前に公共施設の集約を図るため水田が広がっていた10.7haの土地を28.5億円で取得した。しかし、町の財政難で約10年間塩漬けのままになった。平成19年に東洋大学と公民連携に関する協定締結をむすびアメリカ型PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）の手法を活用して、できる限り財政負担を少なくして駅前地区整備を進める事業化の可能性を連携して調査し、「紫波町PPPプロジェクト」を始動した。始動にあたり、100回の町民意見交換会を実施し町民の合意形成を重視した。

平成 21 年 2 月には、紫波町公民連携基本計画を策定し、基本理念を「都市と農村の暮らしをゆしみ、環境や景観に配慮したまちづくりを表現する場にします」とし、開発の考え方を次の 3 点に整理している。①農村(田園)と都市(街)が共生するまち②若者、高齢者、すべての人が希望を持ち、安心して暮らせるまち③人にも地球にも「やさしい」まちをめざしている。平成 21 年 6 月には、公民連携の事業開発の中心的な担い手となるオガール紫波株式会社を設立した。

「オガール」は、「成長」を意味する紫波の方言「おがる」と「駅」を意味するフランス語「ガール」を合わせた造語で、駅前エリアを核として紫波町が持続的に成長していくようにと願いが込められている。

21 年度から始まったプロジェクトで、役場、図書館、スポーツ施設、医療施設、産地直売所、飲食店、住宅、ホテル、子育て施設、公園など、暮らしに必要な施設がオガールに集積している。まちづくりの先進地として全国から視察が絶えない状況にあり、美里町においてもこれからのまちづくりとして参考になると考える。

また、紫波町では、閉校した小学校 7 校の跡地があり、学校跡地活用基本計画と利活用の基本コンセプト「産業の振興」と「人材の育成」と定め、保育所、スポーツ人材施設、酒のまち推進拠点、農業体験人材育成施設など民間事業者による利活用をすすめている。

美里町においては、統合中学校開校に伴う旧中学校閉校の跡地利用、今後予想される小学校の統合を鑑みた場合、様々な角度から民間事業者による利活用も検討していく必要があると考える。

(2) 秋田県大仙市

1) 概要

- ①人口 77,657 人 (令和 2 年国勢調査)
- ②世帯数 28,370 世帯
- ③面積 866.79 km²
- ④平成 17 年 3 月に 1 市 6 町 1 村が合併

2) 質問事項

- ①立地適正化計画に伴うまちづくり計画の内容と施策について
- ②土地利用計画と企業誘致について
- ③彩色千輪花火型の都市構想の内容と施策について
- ④大曲駅周辺の市街地開発事業に伴うまちづくりと成果について
- ⑤地元商店会の取組によるまちづくりの具体的な内容について

3) 所見

大仙市は、毎年 8 月に開催される全国花火競技会「大曲の花火」は日本三大花火で全国的に有名な地域である。

平成 21 年 7 月に都市計画マスタープラン、30 年 3 月に立地適正化計画を策定し「人が生き人が集う夢のある田園交流都市」を目標としている。大曲駅周辺を中核拠点とし、合併以前の旧市町村を地域拠点としそれぞれの個性を発揮する「彩色千輪花火」方の都市構想に設定している。

大曲市中心市街地活性化事業では、大型小売店舗の閉店跡地に総合病院、高齢者福祉施設、複合商業施設を整備し中心市街地の再生を図り、有効空き地創出によるにぎわいの創出、地元商店主の自主的な取り組みによるリノベーションを行っている。

企業誘致については、受け皿としての工業団地の整備、国・県に企業誘致に特化した職員の派遣、企業誘致に対する市の積極的な姿勢は、美里町とし見習う点が多々あり、これからのまちづくりとして参考になると考える。